

レース報告書

スーパーフォーミュラ 第6戦

9月23日(土) 予選 天候：雨/曇 (観客動員数：4,400人)

9月24日(日) 決勝 天候：晴 (観客動員数：10,050人)

予選結果

#64：10位

#65：13位

予選レポート

SUPER FORMULA は終盤戦に突入していて、残すはこの大会を含めて2戦。TCS NAKAJIMA RACING は開幕戦でポイントを獲得したきり、厳しい内容のレースが続いていて、この2戦でなんとしても巻き返しを図り、来年へ繋げていきたいところ。

朝は雨が降ったが、予選の開始頃には秋らしい天候となり、気温21℃、路面温度22℃というコンディションに。朝のフリー走行はウエットコンディションの中行なわれたが、予選はすっかり路面も乾いてきてドライコンディションの中、Q1のスタート時刻を迎える。

コースコンディションとマシンの確認作業を終えた2台は一旦ピットに戻り、Q2進出をかけたアタックをするためにコースインをする。64号車の大祐は11番手タイム、65号車のカーティケヤンは9番手タイムとなり、2台揃ってQ2に進出を果たした。

Q2はスタートすると同時に2台はコースインをして、Q3に進出できる上位8台を目指して、タイヤのウォームアップをしてアタックに入る。気温や路面温度が低いこともあり、大祐は計測4周目に記録したタイムが自己ベストタイムとなり10番手、カ

ーティケヤンは計測 5 周目のタイムで 13 番手タイムとなり、ここで決勝レースのグリッドが確定した。

コメント

総監督：中嶋 悟

「順調に進んでいましたが、Q3 には届かなかったですね。非常に僅差で厳しい予選になりました。明日はうまく進めて上位フィニッシュを狙いたいです」

#64：中嶋 大祐

「菅生は例年調子が良く、今回も上位を狙って精一杯アタックをしたのですが、速さが足りず Q3 に進出することができませんでした。セットアップのベースは決して悪くないのですが、コンディションに対する合わせ込みで後れを取ってしまいました。明日はスタートを決めて少しでもポイントを獲得できるように全力で頑張ります」

#65：ナレイン カーティケヤン

「In Q1 the car setup was really good with the fastest lap time. In Q2, unfortunately I had lots of traffic so could not get the best lap time. P13 is not the true pace of me but the car setup has improved a lot. We made a big step from Autopolis and hopefully we can continue to progress. 」

「Q1 では、車両のセットアップがすごく良くて、ベストタイムとなりました。Q2 では、前に車両が多くて、ベストラップを取ることができませんでした。13 番手は自分の本来のポジションではないですが、セットアップはうまくできています。オートポリスから大きなステップを踏み出していますので、今後もこのまま進んでいきます」

決勝結果

HONDA

TATA
TATA CONSULTANCY SERVICES

EPSON

ZOJIRUSHI

GREEN TEC

PIAA

JCI
Japan Construction Industry

MOHMEI

WPC

S&S
Formula

FORMULA
DRAG
RACING

NGK
SPARK PLUGS

YERGAN
Racing

Arab
Racing

#64 : 17 位

#65 : 13 位

決勝レポート

決勝日の朝は快晴に恵まれ、9 時時点の気温は 23℃、路面温度は 28℃と空気は冷たいものの日差しは強めの気候となった。午前中に行なわれたフリー走行で、決勝に向けた確認作業を行ない、いよいよ第 6 戦の決勝レースのスタートを迎える。

午後になっても汗ばむほどの陽気で、多くのモータースポーツファンでスターティンググリッドは埋め尽くされた。14 時 10 分、いよいよレースはスタート。10 番グリッドからスタートを切った 64 号車の大祐は 1 つポジションを上げてオープニングラップを終える。先陣を切って 8 周目にピットインを行ない、給油のみでコースに復帰する。

一方、13 番グリッドからスタートの 65 号車のカーティケヤンは逆にポジションを落としてストレートに戻ってくるが、序盤でピットに入るマシンがあり、10 周を終える頃には 11 番手を走行。18 周目にカーティケヤンもピットイン、こちらはタイヤ交換と給油をしてコースに戻る。最後尾までポジションを落とすが、ペースを保って周回を続けていく。

68 週のちょうど半分となる 34 周が終わると、大祐は 15 番手、カーティケヤンは 19 番手を走行。中盤はピットインをするマシンもなく、小康状態が続くことになるが、そこから 10 周が過ぎた 44 周目の終わりのストレートで後続のマシンと接触、タイヤが壊れてしまうアクシデントが発生。大祐は壊れたタイヤでなんとかピットに戻ってタイヤ交換を行なって、コースに戻る。残り周回を懸命に走り切ったものの、アクシデントのロスが大きく、17 位フィニッシュとなった。

結果的に大祐のアクシデントで 2 つポジションを上げたカーティケヤンは、ピットイン後にうしろに入るマシンや、リタイアするマシンがあり終盤に順位を上げて 13 位でチェッカーを受けた。

コメント

総監督：中嶋 悟

「2台は作戦を分けて上位を目指しましたが、ナレインは前半の遅れが響き、大祐は何かポイント圏内に…という状況で接触があり後退してしまいました。次戦が最終戦となってしまいますが、今シーズンの総まとめとなるようなレースができるように準備をしていきます。今大会もたくさんのご声援をありがとうございました」

#64：中嶋 大祐

「スタートは良く、序盤は順調でした。途中、無給油を狙ってペースを落として走っていた大嶋選手に引かかってしまったのが痛かったです。大嶋選手を抜きあげている間に、後ろを走っていた塚越選手に迫られてしまい、ストレートで接触してタイヤを壊してしまいました。展開にも恵まれませんでした。今回は決勝中の純粋なペース的にもポイント獲得は難しい状況で、悔しいレースになりました。早くも残り1ラウンドとなりましたが、少しでも良い形でシーズンを終わられるように、チームと協力して準備を進めます」

#65：ナレイン カーティケヤン

「The strategy which we had was to run with less fuel but the circuit being so short, the strategy never worked. Overall the results don't show but we have improved from Autopolis. For the final races in Suzuka, we hope we have a good car there and can make up for the lost points.」

「今回の作戦は少ない燃料で走ることでしたが、サーキットが短かったので、うまくいきませんでした。全体的に結果が見られませんが、オートポリスから車両の状態が良くなっています。鈴鹿でポイントを獲得するために頑張ります」

※次戦は10月21日、22日に鈴鹿サーキットで行なわれます。